

■特別寄稿

## 九州大学へ異動してから ジェストコスターに乗っているような早1年

谷口 初美

寒い京都の2月末、梅の花が満開な暖かい博多へ引越して早1年になろうとしています。月並みですが本当に月日の経つのは本当に早く感じます。皆さまから「谷口先生、九大に異動なさっていかがですか?」と興味津々の挨拶を頂き、その都度、私は「やりがいがありすぎて!毎日がジェストコスターに乗っているみたいなの!」と言っています。本当に目の回るような速さで周囲が動いていて、時にはその遠心力で飛ばされそうになります。そのような時、「時に流されずに、時に縛られずに、私は、今ここに!」と全身の重心を下へ下へと置き、あたりを見渡すように心がけてきたのですが... 私が3月1日に着任した時は、私の属した発達生涯看護学講座(母性看護学、助産学、小児看護学)は新しい校舎に居室を構えていました。しかし、新学期からの講座再編成と保健学科本館の耐震全面改修工事に向けて動き出し、文科省への申請のため稼働率を上げ自助努力を示すための措置として、新館にいた看護教員は5月末から6月にかけて古い本館へ大移動せざるをえなくなりました。私にとっては、2月末に京都から異動したばかりで、新学期始まって慌しい中の2度目の引越、そして全面改修が始まれば来春早々また引越しと1年間に3回の引越となるわけです。校舎がきれいになるのはありがたいのですが... 今では住めばどこも都とはこのようなことを言うのかと思うほどになっています。九州大学の大きな節目の年にたまたま鉢合わせとなってしまったようです。その様中、今まで小さく細分化していた分野は統合基礎看護学分野と広域生涯看護学分野の2分野に再編成され、広域生涯看護学分野に地域・在宅領域と助産学・母性看護学領域が集約されて再スタートしました。

私が九州大学に異動するにあたって2つの使命を担っていました。一つは、助産学の大学院化。二つ目は国際交流の推進です。一つ目の助産学の大学院化に関しては、3年前の流産の傷跡が大きく1歩進んで3歩後進するという様な状況ですが少しずつではあ

りますが前進しています。前回の二の前は踏ませないようにと多くの方々に見守られ支援されている事に感謝しています。

二つ目の国際交流に関して、九州大学の国際交流は既に変化活発です。今までの経緯に沿ってお知らせしたいと思います。九州大学の看護学部門とニューヨーク市立大学との部門間交流協定によりニューヨーク市立大学 Hunter 校から Kathleen Nokes 先生が3月に約2週間本校に滞在し、特別講演「IPE (Interprofessional Education): チーム医療の中で看護職に期待されるもの ~アメリカの現状から見えてくる日本の看護の未来」と博士課程の博士論文や教員の看護研究に関して、細やかな指導をして下さいました。このような研究指導をとまなう姉妹校としての交流は既に数年続いています。部局間交流協定はニューヨーク市立大学だけではなく台湾の高雄医学大学看護学部もそうです。新学期が始まる3月末に、看護学分野の教員2名と看護学生3名(昨年九州大学での国際保健学フォーラムで英語でのプレゼンテーションをした看護学2年生)が高雄医学大学に3日間訪問して交流を深めています。その際、クラスに参加し、英語でのプレゼンテーションを行い野外活動(サイクリング等)も高雄の学生さんと楽しく交流をしています。10月には、九州大学の看護学科の教員3名が高雄医学大学に招聘され、3日間学部生と大学院生の講義を英語ですることになり私もその一人になりました。実際に、伺って驚いた事は、教員だけではなく学生さんの英語力のレベルの高さです。カリキュラムはアメリカ様式になっており、教員のほとんどが最低6ヶ月間米国等で博士論文の研究指導を受けていてその中には米国での学位取得者も数名いました。University of Arkansas for Medical Sciences, College of Nursing, The University of Hong Kong, School of Nursing, The University of Georgia, College of Public Health, The University of North Carolina at Chapel Hill, School of Nursing, Indiana University School of Nursing, The University of Texas Health Sciences Center at Houston School of Nursing, University of Michigan School of Nursing と姉妹校の提携を結び、日本は九州大学だけでなく聖路加国際大学看護学部とも姉妹校で活発に国際交流に尽力を注いでいます。この姉妹校との交流だけでなく、

九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学専攻(助産学・母性看護学)

受稿日 2013年12月17日

受理日 2013年12月17日

海外ボランティアに夏休み等を使ってアフリカ、南アジア、中央アジア等さまざまな地域へ学生や教員を出し、グローバルな視野に立って教育がなされていることは目を見張るほどです。この高雄医学大学看護学科ですばらしい先生にお会いしたのでぜひご紹介したいと思います。鐘信心先生（91歳）長身で背筋をピンと伸ばされて満面の笑顔がとってもすばらしい、まさに「scholar！」です。91歳と言う年齢にびっくり、そして毎日誰よりも先に大学に自転車に乗ってこられるそうです。この信心先生は、日本語がとても堪能。それもそのはず、17歳の時に聖路加女子専門学校に入学され、戦後台湾に帰国後はWHOの奨学金でカナダのトロント大学、次いでワシントン大学で学士号を取得され、帰国後は日本、カナダ、米国の留学で学んだ豊かな国際感覚で台湾の看護教育、看護行政に大いに貢献されてきました。しかし、63歳の時に胃がんの手術を受けられており、この大病後、ご自分の人生の目的、使命についてさらに深く考えられたと語ってくださいました。先生は、現在の高雄医学大学、聖路加国際大学から名誉博士号が贈呈されています。先生は台湾のナイチンゲールであり、高雄医学大学の宝物と称されています。教員にとっては、先生が大学にいて下さるだけでどんなに励ましになることでしょう。まさに、自分たちのメンターと常に接しながらFDを高めている事になっているのです。

また、新学期から私は、地域国際連携推進FD委員会の副委員長に命じられました。保健学科は、毎年11月アジアの国々の教員や学生を招いての国際保健フォーラムを開催しています。昨年はシンガポール、マレーシア、台湾から見えたとのこと。今年は3専攻（看護、放射、検査）すべて台湾の高雄医学大学から教員と学生の招聘と言う事になり準備に取り掛かりました。国際保健学フォーラムは、授業の一環で執り行っており、学生は全員参加です。高雄医学大学の教員のプレゼンテーションとstudent meetingの2部構成で、学生のプレゼンは各専攻毎におこなわれ、看護学専攻では2年生3名が高雄医科大学の学生さんと一緒におこないました。そのために何度も練習を重ねての晴れ舞台となり今年もすばらしい英語でのプレゼンテーションができました。フォーラムだけではなく前後のレセプションや市内観光案内においても学生や教員の国際交流は積極的で、また来年に繋げるよう交流を深めていました。海外との交流は学生だけではなく教員もグローバルな感性を培い、視野を広くさせる良い機会とつくづく思っています。

この様に、一年があっという間に過ぎ去っています。この間、京都大学にも非常勤講師として通わせて頂き、京都大学の先生方に支えていただき良い関係を保てる事は、本当に感謝です。今後ともどうぞご支援、ご指導よろしくお願い申し上げます。